

[第 37 回例会報告] =====

1. 参加者数：166名（学生会員10名含む）
2. 講演件数：20件（特別講演：2件、招待講演：3件、一般講演：15件（学生口頭発表8件含む）
3. 今回の例会を振り返って（運営委員長：内藤 裕義 大阪公立大学）

今回の例会は、広島平和記念公園内の広島国際会議場 国際会議ホール ヒマワリで、第36回例会に引き続き、対面での開催となりました。対面開催が定着してきましたことは討論会開催がより有意義になり、嬉しい限りです。

今回の例会では、特別講演2件、特別セッション（招待講演）3件、一般口頭発表15件（うち、学生口頭発表8件）で計20件の講演があり、166名の参加登録者を得て開催することができました。

特別講演では、ジャパンディスプレイの山本貴史氏から、「OLEDの性能限界を超える eLEAP™ AM-OLED ディ스플레이の開発」と題し、eLEAP技術の特徴を、広島大学の尾坂格先生から、「有機薄膜太陽電池の高効率化に向けた材料開発」と題し、 π 共役系高分子を主とした最近の研究成果を紹介いただきました。特別セッションでは、ディスプレイ高色純度化技術をテーマに、京都大学の畠山琢次先生からは、「多重共鳴効果を用いた高色純度 TADF 材料の開発」と題し、100%の内部量子効率、狭いスペクトル半値幅を有する多重共鳴熱活性化遅延蛍光材料の開発に関する最近の研究成果を紹介いただきました。山形大学の千葉貴之先生からは、「高い色純度を有するペロブスカイト量子ドット LED の開発」と題し、メタルハライドペロブスカイト量子ドットの化学組成、配位子、塗布製膜プロセスが LED 特性に与える影響について最近の研究成果を紹介いただきました。キャノンの大橋良太氏からは、「高輝度と高耐久性を両立したペロブスカイト量子ドットインクの開発」と題し、ペロブスカイト量子ドットの表面パッシベーション、インクとしての安定性を高める配位子による高輝度、高耐久な緑／赤色変換材料に関する開発を紹介いただきました。一般講演においては、15件の講演がありました。評価・解析、材料・装置、学生口頭発表の3セッションを設け、様々な報告がなされました。内容としては、Eu (III) 錯体添加薄膜の発光機構、熱活性化遅延蛍光材料の発光過程の速度論的解析、OLED 材料の不純物分析、電極／電子輸送層界面の理論解析、有機蒸着装置の開発、陽電子消滅法によるガスバリア膜の空隙評価、学生口頭発表では、自発分極による励起子消光の抑制、青色蛍光 OLED の急激な励起子消滅過程、光導波路分光法による温度変調吸収スペクトルの評価など多岐に渡り、有機発光材料、発光ダイオードなどの基礎的な理解、高性能化、新しい応用の開拓が期待できる内容でした。

研究活動を通じた教育的観点より第35回例会から開始された学生口頭発表セッションでは、前回より学生講演奨励賞を新設しております。学生の励みになることを期待しております。

初日の一般講演（材料・装置）終了後には、展示会出展9社によるショートプレゼンを開催し、ショートプレゼン終了後、広島国際会議場 中会議室 コスモスに移動後、交流会を開催しました。交流会では、本年11月に「有機 EL のデバイス物理」を出版された筒井哲夫先生に挨拶いただきました。

アンケートについては今回54名の方から回答をいただきました。特別講演、特別セッションで取り上げるべきテーマ、例会開催場所、運営上の問題など、頂戴したコメントは今後の参考とさせていただきます。運営委員会としては引き続き、有機 EL の最新動向に関連するトピック、および、有機 EL のデバイス開発や評価・基礎物性などの講演を募って、会員の皆様の研究開発に活かして頂けるような例会を目指していきたいと考えております。宜しくお願い致します。

4. 例会プログラム・アンケート結果

https://yuki-tohronkai.jp/data/program/program37_4.pdf : 例会プログラム

<https://yuki-tohronkai.jp/data/question/20231201.pdf> : アンケート結果

5. 次回例会の開催案内（次期実行委員長：河村 祐一郎 出光興産㈱）

第38回例会は、2024年6月13日（木）、14日（金）に東京国際交流館プラザ平成3階「国際交流会議場」（東京 お台場）にて開催致します。詳細な開催案内は3月中旬頃に公開する予定で進めておりますので、皆さまのご投稿およびご参加をお待ちしております。

=====以上